交流で笑顔一杯元気一杯

土曜くまのっこ教室では、学校、学年を越えての交流で多くの経験をしています。

町民会館裏の畑に、昨年度参加の子どもたちが「畑の学校いきいき農園」の人の協力で植え付けたタマネギやジャガイモを収穫し、保護者と一緒に外でカレーを作りました。初めて畑で収穫した子、初めて包丁を持った子もいましたが、目を輝かせての活動は、参加した保護者やボランティアの心に熱く響きました。

また、地球温暖化防止活動推進委員から、温暖化を防ぐためのグリーンカーテンの役割も聞き、家庭で植え付けるゴーヤの苗も頂きました。「帰ったら植えようね」と会話も弾んでいました。

地域の人との交流が子どもたちの心も育ててくれます。

（生涯学習課）

落語を体験しました

熊野第四小学校

一流の芸術家から学ぶ文化庁指定事業「子どものための優れた舞台芸術体験事業」を受け、落語家の笑福亭松枝師匠とそのお弟子さんを大阪からお迎えし、落語の語り口やしぐさを体験しました。

落語を聞くのは初めての児童たちでしたが、師匠の語りやしぐさに引き寄せられ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

師匠から「寿限無」の語りや扇子の使い方を教えていただいた後、舞台上で「寿限無」を唱えたり、扇子を使ってうどんをするしぐさを演じました。児童たちの軽妙な語り口と扇子を操る姿に、会場は笑いに包まれました。

←落語体験の様子

（学校教育課）

山・海・島体験事業

熊野第二小学校

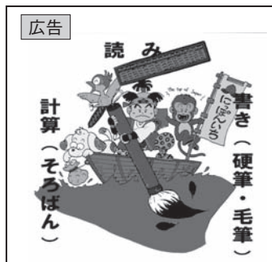
県教育委員会の指定事業「山・海・島体験事業」を受け、5年生30人が、7月21日（水）から24日（土）までの3泊4日の日程で、江田島青少年自然の家で宿泊学習を行いました。

現代の子どもたちは体験活動が不十分で、人との関わりが未成熟なために、「自主性が見られない」、「共同作業ができない」、「自己有用感がもてない」などの課題があります。そこで今回の体験事業を機に、自然の中で互いにコミュニケーションを図りながら課題を克服することができるのではないかと考えました。

活動内容として、カッター、飯盒炊さん、登山、キャンプファイヤー、蠣養殖の手伝い、海辺の生き物調査、海岸清掃などを行いました。事前に、施設や活動について調べ、講師を招いて環境について学んだり、発表会も実施しました。１つ１つの活動を振り返り、自分の行動のあるべき姿を見つめることで、多くの課題を克服してくれました。

（学校教育課）

広告



生徒募集中

読み・書き・そろばんの
サンライトスクール

子育て支援

・幼児かきかたランド
・小１、２対象
　読み　書き　そろばん教室
・そろばん教室
・毛筆、硬筆　書写教室

Tel 082-854-0101 ／ Fax 082-854-8800

第39回町民囲碁大会結果

7月10日(土)に西公民館で町民囲碁大会が開催されました。

その結果は次のとおりです。

（敬称略）

町長杯		議長杯		教育長杯	
優勝	道土井幸朗　四段	優勝	福川　茂人　二段	優勝	蓮池　寿夫　二級
準優勝	古城門一成　四段	準優勝	上岡慎太郎　二段	準優勝	島本　高好　三級
3位	森本　茂利　五段	3位	金井　廣光　初段	3位	江尻　幸蔵　二級
4位	木村　博至　四段	4位	出崎　清治　一級	4位	築本　勇　三級
敢闘賞	山下　琢士　三段	敢闘賞	堀田　忠男　一級	敢闘賞	岡本　正司　二級
敢闘賞	前西　満雄　四段	敢闘賞	大地　啓軌　二段	敢闘賞	江先　五郎　六級

（生涯学習課）

第32回熊高祭開催

熊野高等学校

茅都が育てる　茅都を育てる

この地に（173）

6月26日（土）、「第32回熊高祭」を開催しました。雨の中でしたが、町長や教育長をはじめ、約500人にご来場いただきました。

このたびの熊高祭は、新たな発表企画として、メイン会場の中庭にステージを設け、壁画を制作して掲げて、その前で合唱コンクール優秀クラスによる合唱を開催しました。小雨の中、クラス全員が団結して歌い、感動のあまり涙を流すなど、新たなドラマが生まれました。さらに、書道部による大書や吹奏楽部のコンサート、空手部による演武などを行い、ステージ発表企画が熊高祭をさらに盛り上げました。

本校の経営目標のひとつである「学校行事と部活動の充実」の重要な実践として、保護者や地域の皆さんに見ていただこうと生徒会を中心として企画・準備を進め、学校が一体となって盛り上がり、成功させることができました。今後も芸術的香りの高い熊高祭として内容を充実させ、地域の皆さんにも楽しんでいただけるような行事にしていきたいと考えています。

↑熊高祭　書道部による大書

問熊野高等学校　☎854－4155

くまの歌壇

呉歌人協会会長　山本敏治選

今月の歌壇賞

雨あがりの川の流れは音高し
俱会一処の墓地の草引く　林　幸子

【講評】
雨後の川の流れを、「音高し」とした把握に実感がある。さわやかな流れの音を耳にしながら草を引く作者には、自然児の姿が思い浮べられる。

入選作品

病む人の苦難身代わる野仏の
御身流るる玉露の汗　渡邊京子

初夏の夕暮れ時に公園で
迎へ呼ぶ声母温かし　進藤聿美

「大號令」時代(とき)偲ばるる蔵元の
ありて我が故郷(まち)水を誇れり　臺　信

物産展不景気感じぬ人の波に
呑まれて買い気につい誘われぬ　北木邦子

原爆の亡き人を悼む花いかだ
核の無き世を祈り流るる　小川豊子

小止みなく風荒ぶなり弥生中
咲かぬうちから花を散らすか　大杉徳子

皆さんからの短歌を募集（1人2作品まで）。住所、氏名、年齢、連絡先を記載の上、8月20日(金)までに総務課必着。応募方法は不問。Eメールのタイトルは「短歌俳句係」。
問・申〒731-4292　熊野町中溝一丁目1番1号　総務情報推進グループ（johho@town.kumano.hiroshima.jp）☎820-5601

子どもは地域で守る『子ども110番の家』にご協力ください。
対応マニュアル・ステッカーを送付します。
申青少年育成くまの町民会議　事務局　生涯学習課　☎820−5621